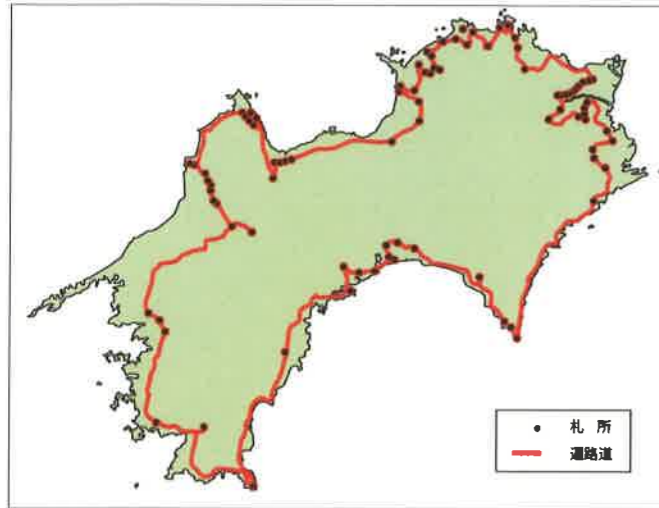


【12】 四国遍路とお接待

四国遍路は、人々にどのように支えられ、受け継がれてきたのだろうか、資料から読み取り、知識を深めよう。



四国八十八箇所と遍路道



第1番札所 霊山寺(鳴門市大麻町)

徳島県内には、1番から23番、66番の合わせて24ヶ所の札所があります。



四国遍路の歴史

四国遍路は平安時代に四国で修行をした空海の足跡を訪ねて、僧や山伏たちが四国の山海を巡り、修行をしたことに始まると言われています。江戸時代になると、一般の民衆も四国を巡るようになりました。札所を結ぶ道は、「遍路道」と呼ばれます。お遍路さんは全長およそ1,200kmの道のりを50日以上かけて歩いて巡りました。現代は自動車による遍路が主流となっていますが、近年は昔ながらの歩き遍路が復活し、外国人のお遍路さんも増加しています。四国遍路は時代とともに変化しながらも、民衆により受け継がれてきたのです。

遍路道の保護

遍路道には、道案内のための「道しるべ」やお寺への道のりを示した「丁石」、遍路の途中で亡くなったお遍路さんのお墓「遍路墓」などの石造物が数多く残っています。こうした石造物は、四国遍路の歴史を物語る貴重な文化財です。

現在、遍路道のほとんどは、舗装道路となっていますが、昔の姿をとどめる遍路道は、国の史跡として保護されています。徳島県でも平成28年度現在で遍路道約11.4kmが「阿波遍路道」として史跡に指定されています。こうした昔ながらの遍路道を保護することも、四国遍路を将来に伝える上で大切なことです。



お遍路さん



江戸時代に建てられた道しるべ(左)と、現代の道しるべ(右)



阿波遍路道「鶴林寺道」(勝浦町)



丁石
三十九丁 山口村の大五良の母が建てた



遍路墓(1852(嘉永5)年に亡くなった芸州(広島県)松江村の仁助さんという人の墓)

お接待

「お接待」とは、道行くお遍路さんに食事や宿などを提供することで、地域の住民が遍路を支える役割を果たした、四国遍路に特徴的な古くからの習慣です。その精神は現代にも受け継がれ、お接待の会や地域の婦人会などにより各地で行われています。また、遍路道を地域の宝物として将来に伝えたいと、草刈りや補修などを行うボランティアグループもあります。最近では遍路道を舞台としたウォーキングも盛んに行われ、お遍路さん以外の人も遍路道を歩くようになってきました。



勝浦町のボランティアグループによる遍路道の補修作業

四国遍路を世界遺産に

現在、四国4県は四国遍路を世界遺産に登録しようと様々な取り組みを行っています。四国遍路を未来に向けて守り伝えるとともに、四国の歴史、文化を世界中に発信する取組に力を入れています。



第3番札所 金泉寺(板野町)でのお接待風景

チャレンジ

四国遍路に来ている人の車のナンバープレートを確認して、どれくらいの人が県外から来ているか、調べてみよう。